

年頭のあいさつ



町民目線でのまちづくりを

神崎町議会議長
高橋 正剛

新年あけましておめでとうございます。

町民の皆様には希望に満ちた平成29年の新春を、晴れやかに迎えのこととお慶び申し上げます。

また、昨年中は本町議会運営につきまして、皆様のご理解とご支援を賜り、厚くお礼を申し上げます。

さて、昨年は熊本地震、鳥取中部地震をはじめ、スーパージョウ台風と呼ばれる大型の台風がいくつも日本列島に上陸し、全国各地に甚大な被害を及ぼし、改めて常日頃から災害に対する備えの大切さを痛感させられた年でもありました。

アメリカではトランプ氏

が次期大統領候補に選出され、またイスラム国によるテロや北朝鮮によるミサイル発射など世界各地で事件が多発した年でもありました。一方、北海道新幹線の開通、リオオリンピックで日本人選手が過去最高の41個のメダルを獲得、大隅良典栄誉教授が3年連続のノーベル賞の日本人受賞とあった、日本中が感動と喜びに大いに沸いた年でもありました。



地方創生の拠点・道の駅

本町においては、昨年5月の町長選挙で石橋町政が4期目をスタートさせ、健全な財政運営に努めており、震災復旧もすべて完了し、道の駅「発酵の里（こうざき）」を地方創生の拠点と位置づけ、観光・産業振興を図り町の知名度アップにも努めております。

昨今、人口減少による「地方消滅」がささやかれる中、地域の活性化や移住・定住対策への取組みは重要な課題であり、町民の方々が改めて子育てや生活に活力を感じ「住んで良かった」「住みたくなる」まちづくりの実現に向けて取り組んでいかなければなりません。そのためには、昨年策定した、まち・ひと・しごと創生総合戦略により、地域の特性を生かした雇用の創設、地域産品のブランド化等地域活力の創出を図ることが大切です。議会といたしましても、道の駅や酒蔵まつりを核として、交流人口の増加を図り、福祉、教育、産業などバランスの取れたまち

づくりを進めてまいります。



酒蔵まつりにたくさんの来場者

また、昨年は70年ぶりに公職選挙法が改正され、選挙年齢が20歳以上から18歳以上に引き下げられ、高校生も選挙権を有することになりました。選挙される議員の立場からも、本町の未来を担う若い世代が政治に関心を持ち、まちづくりに参画していただけるような取り組み作りが必要であります。我々議員も、各々が品位ある議会運営・議員活動を実践し、二元代表制の1翼を担う監査機関として果たすべき役割と責務の重要性を認識し、町民目線で住

民と向き合い、様々な意見や要望を取り入れ、住民福祉の向上、町の発展のために努力してまいります。



議会の様子

結びに、町民の皆様のご多幸をお祈りするとともに、本年も変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。

